

## ■ シラバス

授業名	学生研究3	科目ナンバリング	M-07-03-A
教員名	中野 隆史（微生物学、医学教育センター） 浮村 聡（感染対策室・内科学Ⅲ、医学教育センター） 瀧谷 公隆（医学教育センター） 各配属教室責任者・担当者		
科目の概要	平成29年度より施行される新カリキュラムでは、6年間の統合的な講義シリーズとして「学生研究プログラム」が新設された。これは学生がリサーチマインドを醸成し、自ら課題を発見し、それを解決する、という姿勢を身につけるとともに、医師として EBM (evidence-based medicine) を実践できることを目的にしている。 「学生研究プログラム」の中心は、第3学年に設定している学生研究コア期間（研究室配属期間）であり、すでに第1学年ではその前提として、医学・医療における研究の意義と重要性、医師としてのキャリアパスと研究活動の関係、最先端の医学研究に触れることによってその意義や社会との関係などを自ら考察してきた。 第4学年では、学生研究コア期間で得られたデータをまとめ、研究成果を社会に還元する方法である発表法を実践することで、医学研究全体について学ぶことを目的としている。		
科目のゴール	1)医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。 2)基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。 3)自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。 4)自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。 5)基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。 6)研究成果を学内あるいは学外に向けて、口、ポスターまたは論文によって、発表することができる。 7)研究における倫理的問題への配慮ができる。		
方略	下記に評価とともに示す。		
評価	【評価】 授業態度、発表内容の審査委員およびピアレビューによる評価を総合的に勘案して評価する  【課題に対するフィードバック】 配属先の各教室担当教員と研究プロトコル、実験結果等について毎回ディスカッションすることでフィードバックを行う。		
単位	1.5		
教科書・参考書	とくに指定しない。		
備考	【医師実務経験のある教員】 中野 隆史、浮村 聡、瀧谷 公隆、（各配属教室の医師）		

## ■ オフィスアワー

教員名	中野 隆史
内線・P H S	2646
E-Mail	tnakano@osaka-med.ac.jp
時間	～
内容	質問・相談等あれば上記メールアドレスにご連絡ください。 ※各教室配属期間は担当教員に直接相談すること。

## ■ コンピテンシー

コンピテンシ項目	自律的探究能力
コンピテンシ内容	大阪医科大学学生は、卒業時に：  基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究す

	ることができる。
	卒業生は：
科目達成レベル	1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
科目達成レベル	2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
科目達成レベル	3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
科目達成レベル	4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
科目達成レベル	5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
科目達成レベル	6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
科目達成レベル	7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。
学習アウトカム	A 実践できることが単位認定の要件である
学習アウトカム	7)